


国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】


| | | | |
|-----------------|---------------------------------------|----------|---------------|
| 授業者氏名 | 三宅 孝徳 | 学校名 | 兵庫県立洲本実業高等学校 |
| 教科（科目）・領域 | 地歴公民科 | 対象学年（人数） | 2年（40名）4クラス実施 |
| 実践年月日もしくは期間（時数） | 2019年9月～11月（5時間） 本時：2019年10月21日（月） | | |

【実施概要】


| | | | | | | |
|--|--|---|------|------|-------|----|
| 1. 単元名（活動名）：「国際的課題への理解と取り組み」 | | | | | | |
| 2. 実践する教科・領域： 教科学習 地歴公民科 学校設定科目「時事教養」 | | 3. 学習領域 | | | | |
| | | | 1 | 2 | 3 | 4 |
| | | A多文化社会 | 文化理解 | 文化交流 | 多文化共生 | |
| | | Bグローバル社会 | 相互依存 | 情報化 | | |
| | | C地球の課題 | 人権 | 環境 | 平和 | 開発 |
| | D未来への選択 | 歴史認識 | 市民意識 | 社会参加 | | |
| 4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）：世界の諸課題や発展途上国の現状を知り、国際協力の在り方や方法を学ぶ中で、国際社会の一員としての自分に何ができるのかを考え、模索する。 | | | | | | |
| 5. 単元の 評価規準 | ①知識及び技能 | 発展途上国への支援の現状課題を知り、現在展開されている国際協力の方法や内容を理解する。 | | | | |
| | ②思考力、判断力、表現力等 | 国際協力における自己の役割、先進国の役割、そして今後の取り組みの在り方について考えを表現する。 | | | | |
| | ③学びに向かう力 | 国際協力と自己の関わりを考え、自分が今後どのような行動をしていけるかを模索する。 | | | | |
| 6. 単元設定 の理由・単元 の意義 （児童／生徒 観、教材 観、指導観） | <p>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</p> <p>本単元では、個別事案を通じて国際協力の仕組みの大枠を理解させたい。その上で生徒たちにはSDGsを単なる目標ではなく、達成しなければならない目標として考えるようになってもらいたいと考えた。対象国で本当に必要とされているものは何かという視点や、被支援国が今後自立していくようにするためには何が必要かを考え、そこに向けた取り組みを生徒に理解させたい。</p> <p>【児童／生徒観】</p> <p>実業高校である本校の生徒たちは4つの学科に所属し、各々において専門的な授業を受講している（国際ビジネス科、商業科、機械科、電気科）。学習に対する意欲は自分の興味関心が大きく影響する生徒が多く、授業内でどれだけ興味関心を引く発問をするかが大切なポイントであると考えている。また対象となる2年生の「時事教養」では1学期より毎回メンバーを変えてグループワークを実施しており、対話しながら学習を進める環境には慣れている。</p> <p>【教材観】</p> <p>本単元の事例では、スイッチを押せば簡単に手に入る電気やガスを教材として扱うことで、SDGsで掲げられている目標がまだまだ未達成であり、それが現地の人にどのような苦難を引き起こしているかを生徒に突き付ける。そして自分の身の回りにあるインフラや公衆衛生などが「当たり前にあるもの」ではなく、世界の人々にとっての常識ではないことを理解させる。生徒たちにはこれをきっかけとして様々なSDGsの課題について日常の中で興味関心を広げ、グローバルな視点や理解を深めてもらいたい。</p> <p>また電気に関する開発協力によって、途上国の生活が改善されている例を学び、それがエネルギー政策だけでなく、貧困や教育など他のSDGs目標にも波及し、改善を図ることが</p> | | | | | |




| | <p>できることに気付かせ、総合的な発展途上国への国際協力の在り方を考えさせたい。</p> <p>【指導観】</p> <p>指導にあたっては、「被支援国のニーズを把握すること」「他人事ではなく、自分と被支援国を繋げて考えること」「被支援国の自立を目指すこと」の3点をしっかりと押さえることで、偏りなく課題への理解を深めさせることができると考えている。そのために授業の中では、1事例を丁寧に扱い、国際協力のまとめでは、最終的にどんな事例にも当てはめることができるような国際協力の大枠への理解に重点を置きたい。そして全授業終了後には高校生の柔軟な思考で、日本という国のみならず、自分自身が世界とどのような関わりを持っていけるかを考える時間を設けたい。</p> | | |
|------------------|--|--|---|
| 7. 単元計画 (全 5 時間) | | | |
| 時 | ねらい | 学習活動 | 資料など ※: JICA リソース 活用はここに記載 |
| 1 | 世界の諸課題について扱い、満足な現状を得られていない人(=取り残された人)がどのような人か考え、現状を理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> SDGs とは何か説明を受け、プリントに書き込む。(誰一人取り残さない) 各班がSDGsカードから1つのテーマを担当し、JICA資料を読み、どんな人が、どのような困難を抱え、取り残されているかを読み解く。 各班資料から読み取ったものをプリントにまとめ、全班2分でアウトプット。 |  |
| 2 | 途上国支援での課題「協力とニーズの乖離」について考え、理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> ネパールの「使われない信号」と東日本大震災で「ストックされ続ける支援物資」を題材に以下の問を考える。 <ul style="list-style-type: none"> なぜ信号機が使われていないのか 支援物資はなぜ積み上げられたまま支援者のところに行かなかったのか。 なぜこのような事態が起きるかを班で話し合い、「協力とニーズの乖離」について知る。 「協力とニーズの乖離」を無くすために、支援国がすべきこと(気を付けること)は何か考える。 | |
| 3 本時 | 「ネパールの危険な電気」の事例を通じ、ニーズに合わせた形でのネパールに合った電気とは何かを考える。 | <ol style="list-style-type: none"> ネパールで使われている「危険な電気」を使っている現状を知る。(石油ランプの危険な点を話し合い、プリントまとめる) ネパールが求めている「使える電気」の条件とは何かを考える。 既存の自然エネルギー発電が2の条件に合致するか考える。 最近新しく発明された発電 Gravity Light の取り組みを通じて、国際協力の仕方について理解を深める。 | |
| 4 | 「改良コンロ」がもたらす効果の事例を通じ、この国際協力がどのような影響を持つのか考える。また支援効果の検証の重要性を知る。 | <ol style="list-style-type: none"> 伝統的な調理法から改良コンロに変化したことにより、その国にどのような変化をもたらされたか資料から読み解き、プリントに記入する。 改良コンロに変更したことによって、SDGs項目でどのような変化があったのかを解説し、生徒はそれをプリントにまとめる。 効果測定支援を行う意義は何か考 | <p>参考資料 視点・論点 「貧困削減 新たな支援のかたち」 米NPO コペルニク 中村俊裕氏</p> |

| | | | |
|---|-------------------------------------|---|--|
| | | え、記述する。 | |
| 5 | 世界的課題（SDGs の諸課題）について考えを整理し、意見を構築する。 | <ol style="list-style-type: none"> 1 前時までの①イノベーション支援 ②効果測定支援の知識をまとめ、国際協力の新しい形を模式図を用いた説明を聞き、プリントにまとめる。 2 前時の内容を踏まえて「『持続可能な社会』とはどのような社会か」について話し合い、SDGs に対する理解を深め、個人で記述する。 3 「日本がゴールを達成することは世界にどう繋がっていくか」について話し合い、今後の日本をはじめとする先進国が果たす役割について考え、SDGs に対する理解を深め、個人で記述する。 4 最後に私たちが今できることを考え、記述する。 | |

| 8. 本時の展開 | | | |
|------------------------------|--|---|---|
| 本時のねらい：ネパールで使える安全な電気の条件を考える。 | | | |
| 過程・時間 | 教師の働きかけ・発問および学習活動 | 指導上の留意点（支援） | 資料（教材） |
| 導入 (5分) | <p>T：前の時間で学んだものとみんなが書いてくれた振りかえりを確認しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・その土地に合った支援が必要である ・安定した電気の有無は国の発展には不可欠である。 ・電気の普及率は途上国を中心に未達成。 <p>生徒の感想に （・「国際協力に関わるのは自分には無理」とあればそれを紹介。</p> <p>T：本当に無理なのかな？今日はそれも含めて考えていこう。</p> | <p>生徒は前時のプリントを用意し、モニターを確認しながら、教師の補足説明を聞くことでポイントを押さえる。</p> |  <p>困ること、気になることはないかな？</p> <p>石油ランプ</p> |
| 展開 (35分) | <p>○石油ランプを使用することの危険について考える。【ヨト君と石油ランプ】</p> <p>ヨト君が石油ランプを使っているね。何か困ることはないかな？</p> <p>S:ヨト君が怪我をする（やけどをしてしまう）</p> <p>S:倒してしまって家が火事になってしまう</p> <p>S:ヨト君の健康に害がある。</p> <p>S:石油を買うお金がかかってしまう。</p> | | |

| | | |
|---|---|--|
| <p>S:石油を買いに行く時間が大変 T:じゃあネパールではもっと安全に使える電気が必要だね。</p> <p>ネパールに必要な安全な電気はどんな条件があるのかな？</p> <p>S:子供でも安全に使える電気 S:値段が安く使える（家計に負担をかけない） S:簡単な操作で電気を使える S:いつでも、どこでも使うことができる電気 S:ずっと使える。（継続性） S:地球環境を悪化させない。 T:そうだね。じゃあ今ある発電方法がみんなが考えた「ネパールに合う電気」に合致するかがかえてみようか。</p> <p>様々なエネルギー発電がネパールに合うか考えてみよう。</p> <p>（生徒は最終的に○使える×使えない△保留で分別する）</p> <p>まず、発電方法は何があるかな？</p> <p>S:・水力・火力・原子力・風力・太陽光 T:じゃあ1つ1つ検討してみようか。</p> <p>(1) 水力発電はどうだろう？</p> <p>S:ネパールには山があるから適している。 S:水力発電の発電効率はどうだろう？ S:環境には良さそうなのかな。 S:ダムを造らないといけないよ。 T:じゃあ、みんなの結論ではネパールでの水力発電はどんな評価になるかな？ S:環境のことを考えたら×の評価だね。</p> <p>(2) 火力発電はどうだろう？</p> <p>S:石油が必要になるよ。 S:地球温暖化に影響を与えてしまうね。 S:海の近くでないと建設できないのでは？ T:じゃあ、みんなの結論ではネパールでの火力発電はどんな評価になるかな？ S:海が無いし、環境にも良くないから、火力発電は×の評価だね。</p> <p>(3) 原子力発電はどうだろう？</p> <p>S:原子力発電は危なそうなイメージがある。 S:地震があった国では適してないと思う。</p> | <p>コ 40 本分ともいわれ、呼吸器疾患に繋がる)</p> <p>➡石油ランプの問題点をヒントにして解答につなげる。 健康被害→安全性 環境被害→エコ 家計負担→安価 怪我や家事→安全</p> | |
|---|---|--|

| | | |
|--|--|---|
| <p>S: 原発事故が起きてしまったら大変。</p> <p>S: 原子力発電所は簡単には造れないよね。</p> <p>T: じゃあ、みんなの結論ではネパールでの原子力発電はどんな評価になるかな？</p> <p>S: 地震と原発事故のリスクを考えて、ネパールでは原子力発電は適していないという結論だね。×の評価だね。</p> <p>(4) 風力発電はどうだろう？</p> <p>S: 山だったら風は吹くんじゃないかな。</p> <p>S: ネパールのいつでも風は吹いているのかな。</p> <p>S: 平野部が吹かなかつたら、そこは無理だね。</p> <p>T: じゃあ、みんなの結論ではネパールでの風力発電はどんな評価になるかな？</p> <p>S: ネパールの地形や気象状況をもっと知らない結論は出せなさそうだね。△保留にしておこう。</p> <p>(5) 太陽光発電はどうだろう？</p> <p>S: 太陽光はどこでも手に入るよ。</p> <p>S: ソーラーパネルは家にあるけど、自己発電が可能だよ。</p> <p>S: でも、建設費が結構いるんじゃないかな。ネパール全土に拡大できるか分からないよ。</p> <p>T: じゃあ、みんなの結論ではネパールでの太陽光発電はどんな評価になるかな？</p> <p>S: 以上の意見から考えると、ネパールで太陽光発電は良さそうだけれども、全土で活用するためには価格の課題が残りそうだね。△の評価だね。</p> <p>T: 5つの発電方法を個別に見ていったけど、ネパールにとって適していたかな？</p> <p>S: これ、全部あまり適していないよ。</p> <p>T: そうだね。どうしようか。ネパールではどの発電も少し難しいようだね。他に自然エネルギーは何かないのかな。</p> <p>○注目されている新エネルギーについて知る。</p> <p>T: じゃあ、これを見たことあるかな？最近、途上国で使われ来ている新しい自然エネルギーを使ったライトなんだ。</p> <p>(スライドで gravity light を提示)</p> <p>何の自然エネルギーの力だと思う？</p> | <p>・重力『Gravity Light』の事例を紹介</p> <p>時間があれば使用動画を参照させる。</p> |  |
|--|--|---|

| | | | |
|----------------------|--|---|---|
| <p>まとめ (10分)</p> | <p>S または T : 重力</p> <p>(1) これをどうやって使うと思う?</p> <p>S : (様々な意見)</p> <p>T : 9 k g のおもりを吊ると LED ライトが 30 分つくんだ。</p> <p>(2) おもりは何が使えるかな?</p> <p>S : 石・砂・水・海水</p> <p>T : そう！おもりは何でも使えるんだ。</p> <p>(3) これがネパールの家庭に導入したらどんないいことがあるかな?</p> <p>S : 夜でも本が読める (宿題ができる)</p> <p>S : お母さんの家事もしやすくなる</p> <p>S : 目が悪くならない など</p> <p>T : これの変化があったら国の人たちの生活はどうか?</p> <p>S : ずっと良くなる。</p> <p>(4) 生活の変化以外に、この電気が与える良いものはないかな?</p> <p>S : 自分たちで生産する (仕事が生まれる)</p> <p>T : そうだね！自分達の仕事としてこの電気を利用できるんだ。国の経済にもいい影響があるね。</p> <p>SDG s 7 の「クリーンなエネルギーをみんなに」以外に繋がった課題はあるかな?</p> <p>(想定例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 3 …CO2 の出さない電気が普及する ・ 1 …石油代に使っていたお金が浮く。 ・ 2 …石油代を食事代に回せる。 ・ 4 …子供たちの教育環境が良くなる。 ・ 9 …現地に仕事が生まれる。 ・ 1 1 …特殊 (過酷) な環境でも電気が使え、住み続けられる環境を作れる。 ・ 1 7 …各国が協力したプロジェクトだ。 <p>T : そうだね。この新しい発電機 1 つでいろんな SDG s の課題が大きく動いたね。</p> <p>でもこれは何も道路や発電所とか大きなものを建設したわけではないよね。</p> <p>T : 困ってる国や地域に国際協力しようと思った時、みんなにはどんな力があるかな?</p> | <p>「重力」が出ないときは、「誰でも、どこでも、いつも感じている力」だとヒントを伝える。</p> <p>生徒が詰まったら「自分達でも作れるんだよ」とヒント。</p> |    |
|----------------------|--|---|---|

| | | | |
|--|--|---|--|
| | <p>S: アイディア1つで世界は変わるんじゃないかな?</p> <p>今回の様なアイディアや考えることは高校生のみんなにはできない?</p> <p>S: (出来るかもしれない。)</p> <p>S: (できない。)</p> <p>S: (今は無理かもしれないけど、やれたら嬉しい) など</p> <p>T: (肯定的な返事とこれからのアドバイス)</p> <p>そうだね。みんな日々の中で何かに気づいて、「これは？」っていうのがあれば是非広げてみて欲しい。</p> <p>宿題レポート説明。</p> <p>T: では、宿題の説明をします。</p> <p>(中略)</p> <p>宿題「イノベーションによる国際的支援」について、今回の授業で得た知識や意見を200字で記述しなさい。</p> | <p>ポジティブな意見が出てくれば良いが、押しつけにならないように気を付ける。</p> <p>日々の何気ない気づきが今後のヒントになったりする大切なものと伝える。</p> | |
| <p>9. 評価規準に基づく本時の評価 (評価方法)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノベーション支援の意義を理解したか。(振り返りシート) ・得た知識を自分自身で整理し、文章表現することができているか。(宿題レポート) ・イノベーションによる国際的支援の例を自分で考えたり、調べたりしているか。(宿題レポート) | | | |
| <p>10. 学習方法および外部との連携</p> <p>学習方法では意見交換や共同作業などグループ学習を取り入れる。生徒それぞれに違う資料を提示し、その情報を共有する。この作業の中で生徒は班に対する責任感を持ち、1人1人のすべきことが明確化される。また、消極的な生徒には能動的な学習行動が生まれ、突っ走りがちな生徒にも他生徒との連携を図らせる効果がある。</p> | | | |
| <p>11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み</p> <p>職員に周知し、公開授業としてこの授業を扱うことにしている。また職員会議の場でSDGsの取り組みを紹介し、共に研究や実践活動をしてくれる先生を募っている。</p> | | | |

【自己評価】

| | |
|------------------|---|
| <p>12. 苦労した点</p> | <p>ネパールにおける電気供給を通じて SDGs について理解するという単元の授業を作成したが、「外国の電力事情を勉強した」という感想だけで終わらないためにどうしたらよいかという課題に時間を割いた。どのような方法を用いれば、生徒たちの思考を SDGs の目標の実現や国際協力に到達させることができるのかという点が大切であったが、今回は授業外で宿題レポートを課すことにした。生徒たちはレポートを作成する過程で、授業で得た知識を復習することができ、さらに自分の意見を書くことで国際協力や SDGs についての内容理解ができると考えた。しか</p> |
|------------------|---|

| | |
|------------|--|
| | <p>し、約半分の生徒においては授業の感想に終始し、当初の目的を果たすことはできなかった。私はレポートのねらいを改めて生徒に伝え、以後、質問の書き方を工夫したり、採点基準を公表するなどして、求められている内容を明確化させるなどの改善を行った。生徒の思考を感想だけで終わらせないための方法に大変苦勞した。</p> |
| 13. 改善点 | <p>① 各授業において200字程度のレポート課題を課したが、質問の仕方が適切でなく、問題文の『「イノベーションによる国際協力」について、今回の授業で得た知識や意見』という文言を捉え間違えた生徒が一定数いた。授業者の想定では、gravity light の事例を基にイノベーションによる国際協力が世界の諸問題にどのような良い影響を与え、今後どのような役割を果たしていくのか」という意見を得たかったが、授業内容をそのままなぞったようなレポートが見られた。(例：ネパールでは電気供給が難しいが、そのような土地で gravity light は役に立つと思う。等)</p> <p>こちらの意図したものを考えてもらうためには、質問をより具体的に書く必要があると再認識した。</p> <p>② イノベーションによる国際協力について、生徒の理解到達が不十分だと考え、授業構成を変更した。3時間目の後に1時間、それらを考える時間を追加した。</p> <p>【X (クロス) を通じてイノベーションに通じるアイデアを考える】</p> <p>ツール：クロスゲーム (金沢工業大学)</p> <p>このゲームは、社会の諸問題を如何にして解決するかを目的としており、生徒の発想によってSDGsの諸問題の解決を目指す活動を行った。</p> <p>授業後の感想では、「このゲームにより、『イノベーションによって諸問題の解決を目指す』ということを理解することができた」と半数以上の生徒が回答した。</p> <p>③ 授業作成時には、5時間想定だったが、5限目の2.3.4の記述項目をまとめてレポート試験とし、これまでの授業内容の把握や個人の考えを問うものとした。</p> <p>【問】持続可能な社会の実現についてあなたの意見を答えなさい。</p> <p>(400字以上) 条件1～3の要素を必ず記述すること</p> <p>(条件1) あなたの考える持続可能な社会とはどのような社会か</p> <p>(条件2) あなたの記述した持続可能な社会の実現に向けて国際社会はどのように取り組んでいくべきか</p> <p>(条件3) その実現に向けてどのように関わっていこうと思っているか</p> |
| 14. 成果が出た点 | <p>① SDGsの授業は本年度が初めての取り組みだが、授業を実践することによって、様々な社会問題に目を向ける生徒が増えたように思う。中には、豪雨災害のニュースを地球環境の枠組みだけではなく、産業や街づくりなど他のSDGs目標に関係していることに気付いたり、1学期に学習したラテラルシンキングの考えを活用し、思考を深めた生徒もいた。SDGsは目指す目標が多岐に渡っており1つの項目に絞ることは難しいが、生徒たちは其々が持っている興味関心に応じて、積極的に思考を巡らすことができた。</p> |

| | |
|---|--|
| <p>15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p> | <p>◇「支援とニーズの乖離」レポート(2時間目)より</p> <p>生徒A(商業科・女) 「支援先である相手国としっかり話し合いを行うべきである。そして実際に支援を行いながら、その国の特色を生かしつつ安全な支援を行う必要がある。また、ボランティア精神を持つことは大切であるが、自己満足のための支援はいらない。あくまで一緒に歩いていく(サポートする)ということを忘れてはいけない。必要な時に支援できる体制を事前にとりつつ、もし新たに問題が生じた場合には臨機応変に対応する必要がある。」</p> <p>生徒B(機械科・男) 「私は日本の支援の在り方が間違っているとは思わない。ただ支援する相手国が発展途上国であり、電気の供給が十分でないことを事前にしっかりと調べてから支援するべきだと思った。「相手が欲しがっているのは何か」とニーズを考え、それを支援するのが在り方だと思う。また、信号機は今は要らなかったかもしれないが、近い未来、ネパールが発展して電気が十分に供給されれば必要になる、そういう意味ではあながち支援の乖離ではないかも知れないとも思った。</p> <p>【講評】 生徒Aは、支援する側される側の協力体制の必要性に言及することができ、生徒Bはその上で未来のことまで見据えた意見を言うことができました。</p> <p>◇本時の感想：「イノベーションによる国際的協力」より</p> <p>生徒C(商業科・女) 「今まで誰もが発想しなかったアイデアでいろんな人の役に立つことを生み出すことができる。電気が無い地域では、少し考えを変えるだけで使えたり、水が無い地域でも同じ。できなかったもの、なかったものができたりする。それを、その国だけで使うのではなく世界で共有し合えることでお互いを支え合う、そんな関係性が生まれる。イノベーションによる国際協力は少しの工夫を生かすことによって様々なメリットが生まれるのだと感じた。」</p> <p>生徒D(商業科・女) 「イノベーションによる国際協力を行っていくためには、沢山の新しい意見を考えなければならない。だが、考えるのは大人や国際的協力のことを考えている人だけである。もっと意見を増やすためには、私たち学生も考える必要がある。また、今どのような国でどのような事が起こっているのか知る必要もある。私たちはSNSというツールを持っており、その考えを世界に発信することができる。遠く離れた人たちのことを考え、私たちでもたくさん人の助けができればと考える。」</p> <p>【講評】 生徒Cはイノベーションによる国際協力の価値に言及し、生徒Dはイノベーション</p> |
|---|--|

による国際協力は大人や支援活動をしている人だけでなく、自分たちにも出来る点に言及していた点を評価できる。

◇まとめ授業レポート「持続可能な社会の実現について」

生徒 E (商業科・女)

私の考える持続可能な社会とは、今快適な生活を送るためだけに限りある資源を使い切ってしまうのではなく自分の子供、孫、そのもっと先の世代のことを考え、将来まで快適な生活が送れる社会のことだと考えました。それを実現するためには世界中の人が世界の現状を知り、自分の問題として考えることが重要です。また国連で決められた持続可能な開発目標である SDG s の解決に取り組むことも必要です。しかし日本での認知度は 27%とまだ低いです。だからまず国際社会が取り組むべきなのは、世界の現状や SDG s について多くの人に知ってもらうことです。私は世界中の多くの人々が利用している SNS を使い、有名なアーティストやクリエイターに発信してもらって関心度を高め、拡散するのが一番効果的な方法だと考えました。また私たちができる取り組みも似ています。私たちが授業で学んだことを活かし、少しでも SDG s に関心を持ち、考えてもらうことが出来れば持続可能な社会の実現への一歩に近づくのではないかと考えました。私もこの課題が無ければ調べなかつたらろうし、知らなかつたことも多くありました。だから、SDG s を聞いたことがある人が 1 人でも増えたり、どういう取り組みだろうと調べてみる人が多くなるきっかけ作りも重要だと思いました。

生徒 F (電気科・男)

僕は小学校でも学ぶようなことを考えました。持続可能な社会に必要なのは「1 人はみんなのために、みんなは 1 人のために」という気持ちだと思います。でも世界には人種、男女差別もあるし、今の僕が直接困っている人の所に行って手伝うというは、今は難しいことだと分かっています。しかし、だからこそ僕は、知識を増やし、Gravity Light のような誰にでも何処でも使えるものを発想し、いろんな人の助けになりたい。そんな僕が今一番興味がわいたのは世界全体のゴミ問題とその処分です。これには、無駄の多い生活をまず見直していくことが大切です。そしてさらに大切なのはきちんと分別をすることです。世界では間違った処分方法やポイ捨てによって劣悪な環境になっている所もあるし、それが世界の環境悪化に大きく影響しています。世界でゴミの知識の共有や協力することで少しは環境改善につながるはずです。また僕ら 1 人 1 人の意識の改善も大切です。分別だって最近になってきてきているけれど、日本にもしない人がいる。ポイ捨てもです。理由は周りもしていなかったり、面倒だという理由が多いそうです。だから僕は自分 1 人だけやっても無駄だと思わず、自分の行いが何か良い影響があると信じて、そういった一歩を心掛けていきたいと思っています。

僕はゴミ問題が解決したら環境汚染なども減って、魚や農業が救われていくと考えました。飢餓で苦しんでいた国も満足のいく食事ができるようになるかもしれない。忘れてはいけないのは、SDG s には 17 の目標があるけど、1 つが出来るよう

| | |
|----------------------------|---|
| | <p>になったら、また1つ、1つと繋がっていき、いずれは17の目標が達成していくのではないかということです。</p> |
| <p>16. 授業者による 自由記述</p> | <p>SDGsを授業で取り上げるにあたって、生徒たちにどんな考えを得させるのかという点を悩んだ。教師海外研修での体験も踏まえたいという想いもあり、ネパールでの電気供給を題材に国際支援を考える構成を考えた。SDGsとは何か?という基本から始まり、支援とニーズの乖離やイノベーションによる国際協力、効果測定支援などを学習し、「持続可能な社会の実現に向けて」というレポートを最後に総まとめの位置づけとして実施した。</p> <p>最後のレポートを読むと、生徒たちは予想よりもSDGsやJICAが行っている国際協力について考え、能動的に学習してくれたように感じる。生徒たちは前時までの知識と新しい学びを繋ぎ合わせ、自分はどうか考えるのか、諸課題の内、何を中心に話したいのかを1時間の中で考え、レポートを完成させた。そのレポートは各々違ったテーマ内容で、違った視点から記述されていた。私はそれがとても良いと感じることができた。</p> <p>SDGsは世界のあらゆる社会問題についての取り組み目標である。私の希望は、生徒たちがこれから一番自分の興味が湧いた分野を更に突き詰め、自分なりの方法で関わっていくことである。私もSDGsに継続的に関わりを持ち、授業研究を通じて来年も生徒たちにこの問題について一緒に考える機会を作っていきたいと考えている。</p> <p>(追記)</p> <p>もう一つ、私自身の最も大きな反省を記載しておく。</p> <p>それは自分の想定した答えを誘導してしまうということである。答えを用意し、その方向に向かわせることは、多様な意見が出る機会を奪うだけでなく、生徒の思考さえも止めてしまうことだ。地歴公民科教員として「生徒が様々な考えを巡らし、自らの意見を出す」ような授業を作っていかなければならない。生徒の心が動く授業を行うためには、生徒たちが思考する時間と機会を沢山用意する必要があるのだと学べた機会だった。これからもこの教訓を忘れずに授業開発を進めていきたいと思う。</p> |

参考資料：

“貧困削減 あらたな支援のかたち 米NPO コペルニク代表 中村俊裕”

NHK 解説委員室 <http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/251754.html>

“SDGs カードゲーム『THE SDGs Action cardgame 「X (クロス)」』”

金沢工業大学 SDGs 推進センター <https://www.kanazawa-it.ac.jp/sdgs/application.html>